

勝林寺夕報

寺林

昭和六十年三月一日

兵庫県出石郡出石町内町五九

智慧の光明はかりなし
有量の諸相」と」とく
光暁かふらぬものはなし
眞実明に帰命せよ
智慧のひかりとしてはたらいてくださる如来さま
の光明は
いたらぬところ
およばぬものとてございません。
区別や差別や対立やあらそいのなかにいる
あらゆる生きとし生けるものも
この如来さまの光をこうむらぬものはありません
ちようど
あかつきのひかりが
聞のなかにあるすべてのものに
あたらしいいのちをあたえるように

真実のひかりの如来さま
私のいのちのよるべとあおごうではありませんか
親鸞さまは、わたしたちの真実の如来さまを「
不可思議光如来」「無碍光如来」などと「光明の
如來さま」として仰いでいらっしゃいます。そし
てまた私たちが迎えとられるお淨土も親鸞さまは
「無量光明土」とよんで如来さまの光のなかにあ
る国とごらんになっています。

「光明」、ひかりとは何でしようか。
原子と原子とがはげしく動きぶつかり合うその
結果輝き出すものが光です。春の日のうららかな陽光も実は、太陽の内と外
との激しい運動の結果としてそぞがれている光な
のです。

「智」は、あれはあれこれはこれと分別して思
はからうによりて思惟と名づく。
すなわち智慧の智とは「五切思惟之攝受」のあの
思惟あの如来のご苦労のことです。
この罪業深重の私を迎えるお淨土はと二百一十
億の諸仏の国土をくまなくしらべてくださいました
この私の眞実の親になるためはてしない時間をか
けての修行でした。
この私を救うてだてはと考えとおしてくださいま
した。

その如来さまの、私一人を救うための激しい願い
と行（はたらき）、それを「智」とよぶのだと親鸞
さまはおつしやるのです。

そして親鸞さまは「智慧」の「慈」を次のように
いただいておられます。

「慈」は、このおもいの定まりて、ともかくもは
たらかぬによりて、不動に名づく・不動三昧なり。

親鸞さまは、わたしたちの真実の如来さまを「
不可思議光如来」「無碍光如来」などと「光明の
如來さま」として仰いでいらっしゃいます。そし
てまた私たちが迎えとられるお淨土も親鸞さまは
「無量光明土」とよんで如来さまの光のなかにあ
る国とごらんになっています。

お絆さまにはこの切実なそして輝かしい光明をま
た別のことばで「至心・信樂・欲生」とあらわし、
あるいは「信心」の光と示してあるのだよとも教え
てくださっています。

その如来さまのお徳を、いま親鸞さま
は仮に十二に分けて私たちに教えてくださいます。
その第一番目が「無量光」です。
ここにかけたご和讃はその「無量光」を讃嘆
なさつたものですが、それは来月号で味わつてみ
ましよう。

(この項次号へ続く)

如来さまの光明も同じです。
そのような如来さまの光明を親鸞さまは「智慧」
の光明とよばれるのです。

「阿弥陀仏は光明なり、光明は智慧のかたちなり
と知るべし」(『唯信鈔文意』)

そして親鸞さまはその「智慧の光明」を次のよう
に示してくださいります。

アフリカ救援募金 ありがとうございました

アフリカは今、今世禍禍といわれる飢餓のまつたなか
にあり、日頃が続々、食糧不足に苦しむ人々は実に一億五
千万人にものぼると伝えられています。そうした中、現在、全
國的に「アフリカの飢餓を救おう」と各地で救援資金活動が
繰り広げられているが、宗門でもたすけあい運動の一環とし
て救援活動にいちばんよく呼応、なかでも雪のなかでターナ活
動として街頭募金を行なつたり「アフリカのおともたちに送
つてください」とお年玉を寄せる子どもなど、あたらしいダ
ーの輪が宗門のすみすみにまで波及している。(「本願寺
新報」)

この記事が出たのは勝林寺仏婦がすでにダーナ募金を集め
たあとでした。

しかし仏婦の評議員会は、なんとしてもこの「アフリカ救
援募金」をしようとすることになりました。

子さん手造りの美しい募金袋も届けられたことでした。
かくて二月一日からは「テレホン法話」で「ダーナ」という
ことを流すと同時に各部屋で募金活動にとり組んでいただ
きました。

集められた「四万三千五百三十九円」は、二月十九日作戦
が直接ご本山を通して全日本・日本国際ボランチア・センタ
ーに納入しました。心から感謝します。

テレホン法話(二月一日)
二十一日 春季復岸会法要
二十四日 教養院草氏宅法事・教養院勇氏宅法事
二十五日 みのりを開く会
二十七日 相生願佛寺法事・寺族研修会
二十九日 岡野耕雄氏宅法事
三十日 成田花子氏宅法事・中川健氏宅法事

二月一日 テレホン法話(二月一日)
二月二日 春季復岸会法要
二月三日 多田平夫氏宅法事・前坊守洋月命日
二月四日 生田俊雄氏宅建碑式
二月五日 清水謙一氏宅法事・仏事法事役員会開会
二月六日 京都教区連研般舟研修会講師(京都)
二月七日 滝水謙一氏宅法事・仏事法事役員会開会
二月八日 萩原義雄氏宅法事
二月九日 安藤義久氏宅法事
二月十日 佐藤義久氏宅法事
二月十一日 春季復岸会法要
二月十二日 藤井義久氏宅法事
二月十三日 藤井義久氏宅法事
二月十四日 藤井義久氏宅法事
二月十五日 藤井義久氏宅法事
二月十六日 藤井義久氏宅法事
二月十七日 藤井義久氏宅法事
二月十八日 藤井義久氏宅法事
二月十九日 藤井義久氏宅法事
二月二十日 藤井義久氏宅法事
二月二十一日 藤井義久氏宅法事
二月二十二日 藤井義久氏宅法事
二月二十三日 藤井義久氏宅法事
二月二十四日 藤井義久氏宅法事
二月二十五日 藤井義久氏宅法事
二月二十六日 藤井義久氏宅法事
二月二十七日 藤井義久氏宅法事
二月二十八日 藤井義久氏宅法事
二月二十九日 藤井義久氏宅法事
二月三十日 藤井義久氏宅法事
二月三十一日 藤井義久氏宅法事

させなければ、私はあなたの親とはよばれません」と、如来のいのち
のかぎりを施してくださるなかで南無阿彌陀佛となつてくださったの
が私たちのはとけます。

人と生れ、おみのりに会い、如来のいのちのなかに生れかわらせて
いたいた私たちです。

ところがこの世界のなかには、せつかく人と生れながら、あるいは
自然の災害で、または政治のあやまりや戦争のために、飢えたり病に
おかされたり、むさむさと生命を奪われたりしていく人々がたくさん
います。

得がたいのちです。もつたないのちです。恵みのなかの
大切なのちです。

いのちのもつたなきを知らせていたいた私たちは、当然人のい
のちを大切にしなければなりません。私のいっぽい、人のいのち
もつたなきを、世界の人々と分かちあおうではありませんか。

私のお念仏

宮嶋千秋

おのれを出せば

人を傷つけ

春になると植物が芽出し発育をはじめ動物たちも一気に成長をするのですが、それにはあのおたかなくまなく照す春の太陽のひさしをわざることはできません。

人が生れ育ち、そしてもの心がつくようになります。やがてだんだんと一人で何も彼もできるようになつていきます。あるいは、いろいろなことに出会いながら、その出会いた事象について研究するようになり、その研究や体験を重ねるなかで積極的に自分でものを創作するようになるばかりか目に見えない高度な理念や思想ととりくんでいくようになります。

これは人間だけにある発育と成長だと思いますが、わたくし自身つねづね、自分一人で大きくなつたのだと思つてゐながら、ついついそう思つてしまつております。

いま私の子どもたちの、あたかも一人で大きくなつたような顔を見て、ひるがえつて自分自身のことを反省するかと思えばなかなかそうはいきません。子どもを責めるばかりの私は、「ほんと親になる」とのむずかしさをつくづく思うところです。

いつどのよくな不幸がくるかも知れないということはできれば思いたくないです。

それを思うまいと願うとき、手段を考えば必ずなりふりかまわらず、いろんなことにこつたり折つたりするといふこともありますが、まつたく愚かなことともつたいたいことだと思います。

しかし私自身不幸にてあつたとき、おちついて反省ができるでしようか。私は自信もなく不安でございます。

自分が動けなくなつてボケがくるまでによくよく聞いて自分をかえりみるようになりたいと思つながら月日は矢のように過ぎ去つていくことを感ずるばかりでございます。

子どもがそだつかげには親の苦労のあることのあ

勝林寺仏教社年会
新役員名簿

顧問 永井貞雄

立脇精一

鶴井孝

会長 平野谷垣

副会長 坂本永井

会計 岩上三喜夫

事務局 大石正和

松本千秋

横山弘三

母の感触 松本三郎(七十九歳)



おのれを出せば
人を傷つけ
人をあたゝめる ○

おのが退けば
おのれを出せば
人を傷つけ
人をあたゝめる ○

代議員会終る

二月十七日、昭和六十年度定期代議員会が開かれた。

事前に全戸配布の「勝林寺寺報(臨時号)」により各部落議案書検討のうえ集会の代議員は三十四名でした。当日はあいにく吹雪でしたがほとんど欠席部落はありませんでした。

住職より五十九年度の教化や行事の詳細な報告と決算書の説明がありました。加えて基本財産会計と「ご木山阿弥陀堂昭和修復完成記念法要」の懇意集納についても報告とお礼のことばが述べられました。

つづいて昭和六十年度へむけての願いが具体的に述べられたに対し、代議員よりことに「寺報」と「テレホン法話」についてその聴取者拡大を私たちの手ですすめていこうという意見を述べました。また過去帳整備の作業についての依頼もありました。六十年度の予算は原案通り可決されました。

次に鐘楼改修移転のことと本堂内外附格天井彩色工事の件につき協議しました。

鐘楼については境内地全体のしかも長期を見通したなかでもう一度考るべきだという意見が強く出され将来へ向けての懸案となりました。

天井については、内外陣とも工事実施の方針を確認したうえで、ただその経費ねん出の方法につき次回代議員会(三月下旬予定)で決定することを申し合わせました。

仮社新役員きまる



おおぜいの方々が笑顔で「ご苦労さんです」とねぎらいのとばをくださいました。

わたしは、おおぜいのはとけさまから私のような

おおぜいの方々が笑顔で「ご苦労さんです」とねぎらいのとばをくださいました。

わたしは、おおぜいのはとけさまから私のような

ものにも「いのちのともしび」をいただいたように感じました。

うれしくてうれしくて、少しだけこの「ここらのともしび」を大きく身いつぱいにいただかせていました。

だいたいと思つたのでした。

ご門徒のかたがたのありがたいあたゝかさに心から感謝いたしております。

二月二十四日(日)午前中理事会ついで午後総会を開いて主に六十年度の計画・予算と役員の改選について協議しました。

七年半の長期にわたりことに会員の拡大と会の運動の活発化に終始挺身奮闘して内外ともに評価される勝林寺仮社を築きあげられてきた龟井孝会長が強烈な辞意を示され会議は一時困難でしたが、選考委員によつて対策を練つた結果、龟井会長を顧問にいただき指導をおねがいしながら次の役員の新陣容を選出決定した。

ただ今年も引き続いて全戸加入の運動を継承していくことが強く要望されていた。

ご門徒全體のご理解が望まれる。

新役員名簿

顧問 永井貞雄

立脇精一

鶴井孝

会長 平野谷垣

副会長 坂本永井

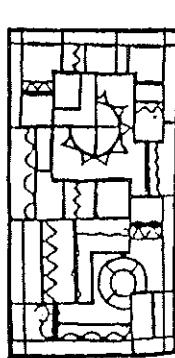
会計 岩上三喜夫

事務局 大石正和

松本千秋

横山弘三

母の感触 松本三郎(七十九歳)



初日新聞「木魂」欄より

なつたのでした。

がし同時に陽光に輝く母子三人の姿に、今更したい気持ちになりました。折から陽光が差し込んで母子三人を照しました。私も数十年前に、このような気がつたように思います。今はない母の温かな手の感触が、老いた身の背中によみがえる思いがし、同時に陽光に輝く母子三人の姿に、今更したい気持ちになりました。